

# 平成21年度自治体職員協力交流事業の研修員を受入れて

高知県は平成8年度より国際協力事業の一環として、海外の地方自治体の職員を協力交流研修員として受け入れており、平成21年度はフィリピン・ベンゲット州政府より、ジェリー・ディタン・ラオイーさんを迎えました。ジェリーさんは平成21年7月より約5カ月間高知県高知土木事務所にて研修されました。

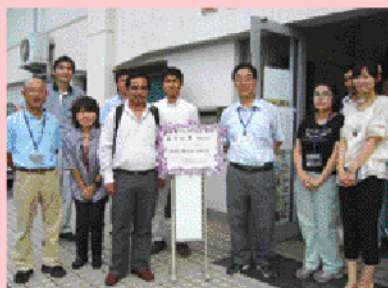
## 高知県高知土木事務所での研修を終えて

平成21年度協力交流研修員 ジェリー・ディタン・ラオイー

ジェリー・ディタン・ラオイーと申します。フィリピン・ベンゲット州政府にて土木技師として働いています。

この度高知県高知土木事務所で5か月間、土木と建設、資材検査、品質管理、設計書などの研修を行いました。

日本ではたくさん学ぶことができましたが、言葉の壁があり、すべてを理解することはできませんでした。しかしその中から、少しでも学び取り、知識や技術を向上させるように努力しました。建設現場や品質管理を見学できましたし、公園、お城、お寺を訪れることで新たなアイデアが生まれ、私の国にもこのような観光施設を作れたらいいなと思いました。



色々とお世話をしてくださいました、高知県国際交流協会と高知県に心から感謝をしています。また、高知土木の方々を私を家族の一員のように受け入れてくれ、言葉が解らなくてもとても親切に接してくださいました。

## フィリピンからの研修員を受け入れて

高知土木事務所 河川管理課 文野道景

高知県国際交流協会の職員に連れられて、協力交流研修員のジェリーが事務所へ来た。

私は椅子から立ち上がり、「How do you do?」と挨拶すると、ニコリとするだけで、そのジェリーからは、何の言葉も返ってこなかった。私は『あれ、英語は苦手なのかな?』と思い、しばらく間を置いて、覚えてたの言葉で「マブティ ナマン アト カヨイ ナカラティン」(ようこそ いらっしやいませ)と言うと、ジェリーは挨拶を返すよりも、「あっ、タガログ語」とびっくりした様子だった。多分、日本人からタガログ語が聞いたことに単純に驚いたのだろうと思った。

後日、彼は英語で話せることを知ってから、私の仕事場の案内や食事に誘う時は英会話をしたが、朝夕にタガログ語で挨拶すると、決まって「あっ、タガログ語」とびっくりするばかりであった。こうなると、通じていないのかも知れないと疑心暗鬼になり、ベンゲット州の主要言語を調べてみた。すると、パンガシナン語であった。私は勝手に『このためか』と納得した。

来高からしばらくして、初めて食事に誘った道すがら、意を決して聞いてみた。「なぜ、タガログ語で話さないのですか?」、彼曰く「話せますよ」。「それなら、なぜ私がタガログ語で話しかけると、いつも『あっ、タガログ語』とびっくりするだけなのですか?」と聞くと、あまり明確な返事ではなかったが、ネイティブスピーカー(現地人話者)の彼がタガログ語を使うと日本人の私が理解しづらいと考えてタガログ語では受け答えしづらくなったようだ。

彼は、どちらかと言うとシャイな性格で、まるで、日本人のようであり、私の管轄する公園を見てもらう中では、あまり大きな驚きは示さなかった。そして、研修も終盤になると、日



その温かさが私に生きる力をくれました。お昼休みには仲間とピンポンを楽しんだりもしました。

高知は大変うつくしく、有名なところや観光地がたくさんあります。また、高知の人は親切で、いつも助けてくれるので、家族と住むにも大変適しているところだと思います。ただ夏は暑くて苦労しましたけれど。

もちろん、故郷にいる家族のことを考えてさびしくなったりすることもありましたが、高知滞在中は病気やけがもなく過ごす事ができ、本当によかったと思います。

高知での生活は、私の大切な思い出の一つになりました。

高い技術と豊富な知識で、一見不可能に見える場所にとて長いトンネルや地下道など建設していく技術に何度となく驚かされました。

多くの候補者の中から私が選ばれ、高知で研修できたことを誇りに思い、これからもベンゲット州からたくさんの研修生を受け入れていただき、高知とベンゲットの友好関係がさらに発展することを願っています。

本語がかなり話せるようになっていた。

ある日、ジェリーとレストランで食事のテーブルを囲んだ時、彼が「箸」を持って「キョウリョウ」と言った。最初は、何のことが解らなかったが、「ブリッジ (bridge)」と言い直したので、「橋」のことを言ったと解った。橋を土木用語で言えば「橋梁」なのである。つまり、「箸」と「橋」は発音が同じことから発想したのだ。日本語には、雲と蜘蛛、雨と鮎、城と白のように発音は同じものが少なからずあるのだが、そのことが彼に解った時は大笑いとなった。後日の宴会でも、その話が出て、会場がおおいに盛り上がったことである。

時々、ジェリーが私の下手なタガログ語に返事してくれたが、独特の発音でさっぱり聞き取れないのにはお手上げ状態だった。

それでも私は、お互いに相手の国の言語で話してあげることが、最上の国際交流であると思った。

## 道路建設課 小野寺市朗

高知県国際交流事業による研修員が、フィリピンから当事務所しかも我が道路建設課に来ることになった。「えらいこっちゃ!」が私の最初の感想である。彼が来所した7月中旬から、英会話力の無い私のパソコン画面には翻訳サイトが常に開かれた!

とにかく現場を多く見せて日本の土木技術の実態を把握してもらおうと、ほとんど毎日のように各担当者が入れ替わり立ち代り現場へ案内した。見学効果のある状況をタイミングよく見せたいと思って、スケジュールを調整するのに苦労したが、インフラ整備の状況や生コンクリート工場・橋梁工事現場など多岐に渡り、彼も初めて見る技術に目を見張ることも多く、良い経験になったと思う。

彼が国に帰ってから10年もすればきっと今回見た土木技術が導入され、活かされていることであろう。

